

令和7年度 交通局X方針について

■ 局区X方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 交通局X方針について

(1)課題数 全4件

課題領域	Aレベル	Bレベル	Cレベル
課題数	2件	1件	1件
政策分野	局全体	事業経営	局全体

Aレベル……行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・Cレベル…政策的な変革課題(Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等)

(2)主な課題・取組内容等

・課題A 人事・給与関係業務等の DX 化・標準化(資料1のP3)

- 交通局職員の給与計算事務について、バス運転者の勤務形態の特殊性や長年の制度変更等により、システム対応できない部分が多く発生している。
- そのため、令和7年度には、運行管理部門を含めた局全体での業務の棚卸しを実施し、各種台帳のペーパーレス化を行うとともに、システム化や業務改善の可能性についても検証し、可能な取組について順次実施していく。
- 併せて、システム化が困難な業務についても、事務手続きの見直しやマニュアルの再整備等により、可能な限り業務の標準化・一般化を図る。

・課題B 持続可能な交通事業の構築(資料1の P5)

- 「市民の生活の足を守る」という交通局の使命を果たし続けていくため、「持続可能な交通事業の構築」を図る必要がある。
- そのため、令和6年度には、外部有識者等からなる「市営バス事業あり方・役割検討会議」を4回実施し、「市営バス事業」のあり方について意見を聴取した。
- 令和7年度は、この検討会議で取りまとめた「市営バス事業あり方・役割検討会議報告書」を踏まえ、「次期市営バス事業経営計画」を策定し、具体的な経営改善策について順次打ち出し・実施していく。

・課題C 施設・車両の老朽化対応(資料1の P6)

- 収支均衡(黒字化)に向けた経営改善に取り組んでいる中、施設や車両の老朽化対応にかけられる費用を捻出することが困難な状況にある。
- 一方で、交通事業を持続可能なものとするためには施設・車両の維持・更新が必要不可欠であり、車両の更新は市民サービスの質の向上にも直結する。
- そのため、R7年度については、以下の取組を行う。
 - ・ 収支均衡(黒字化)に向けた経営改善
 - ・ 市・県等の施策に係る各種補助金の活用
 - ・ 将来的な施設建替え等を見据え、財政基盤を整える枠組みについての論点・課題整理